

連携医院のご紹介

今回は西洋医学を根本としつつ東洋医学を積極的に取り入れ、患者さんの幸せを目標とした治療に努める「いのうえ内科脳神経クリニック」の井上健先生です。



井上院長

いのうえ内科 脳神経クリニック

〒730-0845
広島市中区舟入川口町5-7
電話/082-233-0747
院長/井上 健
診療科目/一般内科・脳神経内科・
アレルギー科・漢方内科



○いつ開業されましたか。

昭和45年に父が開業した井上内科胃腸科医院を、県病院（脳神経内科）を退職後の平成24年7月に継承しました。継承後、「いのうえ内科脳神経クリニック」に名称を変更しました。

○毎日の診察で大切にされていることは何ですか。

患者さんの声を聴くことです。診察時間は限られており、私だけでなく、スタッフを含め皆で聴いて、患者さんの思いを引き出せるようにしています。会話だけでなく、アンケートや手紙など様々なコミュニケーションの方法を使って患者さんの思いを引き出すことが大切です。

○開業医のやりがいは何ですか。

話を聞いたり、重大な病気を見つけたことで患者さんに「ありがとう」と感謝されることです。また、神経難病の診断は難しいのですが、正しい診断をすることは、患者さんだけでなく私自身の生きがいや、喜びにもつながります。

○開業してから力を入れておられるところは？

頭痛の診断に必要なCT、MRIについて十分に設備を整えています。中には頭痛から「脳動脈瘤」が見つかることもあり、それらの診断に力を入れています。

○県病院はどんなところでですか。

患者さんを紹介すると断らずに診察してもらえることがありがたいです。頼りになる医師の方は多くいますが、特に脳神経内科の時信先生、仲先生は医療技術が高く頼りにしています。



いのうえ内科脳神経クリニック外観

【取材後記】

脳神経内科を標榜した診療所は多くないですが、地域の方々が脳神経専門を意識されて受診されているとお聞きし、知名度の高さに驚きました。また、院内の明るい内装と先生の穏やかな雰囲気により、お話しやすさを感じました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

災害派遣医療チーム

日本医師会災害医療チーム

DMAT, 救護班, JMAT 隊員を派遣

「平成28年熊本地震」による災害で亡くなられた方、そのご遺族に心からお悔やみを申し上げます。また避難生活を送られている皆さまに深くお見舞い申し上げます。被災された地域の一日も早い復興をお祈りいたします。



当院のDMATスタッフ



現地DMAT本部



西原村救護所前



当院の救護班スタッフ

県立広島病院では、熊本地震の被害にあわれた人々の支援を行うため、4月16日から19日までDMAT（災害派遣医療チーム）の伊関正彦医師、楠真二医師、小川恵美子看護師、石井龍看護師、桂藤和司看護師の5名を派遣しました。同チームは菊池市川口病院でDMAT活動拠点本部を立ち上げ、本部業務（周辺病院の医療ニーズ把握、病院避難対応）にあたり、阿蘇医療センターに移動後は医療ニーズ把握、夜間に発生した交通事故事案に対する現場活動を行いました。

全国知事会から救護班派遣要請を受けた当院は、救護班を結成し、4月21日から27日まで総合診療科の岡本健志医師、笹山亜弥子看護師、永井佳織看護師、笠原庸子薬剤師、

上田貢事業調整員が、被害が甚大とされる熊本県阿蘇地区を中心に災害支援活動を行いました。

西原村の避難所・救護所調査、感染性胃腸炎の集団発生がみられた南阿蘇村の避難所調査、阿蘇市にある大阿蘇病院医療支援、阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議（ADRO）本部の救護班派遣受付・調整など活動は多岐にわたりました。

また、4月30日から5月2日までJMAT（日本医師会災害医療チーム）の山田博康医師を阿蘇医療センターに派遣しました。

いまだ余震が続き不安を抱える熊本県の被災者の皆さまのため、今後も当院は出来る限りの活動をして参りたいと考えております。

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケアターミナルケアヘルパー・介護員研修

- 開催日 平成28年8月2日(火)・8月4日(木)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成28年6月24日(金)~7月8日(金)必着
- 参加費 3,000円(資料代)
- 対象 次の要件をすべて満たす者
 - ①県内の介護保険指定事業所・介護保険施設に所属している介護福祉及び、2級以上のヘルパー、介護員
 - ②全課程(2日間)をすべて出席できる者

緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修 基礎コース

- 開催日 第1回 平成28年7月12日(火)・20日(水)の2日間
第2回 平成28年7月22日(金)・27日(水)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 第1回 平成28年6月7日(火)~6月21日(火)必着
第2回 平成28年6月17日(金)~7月1日(金)必着
- 参加費 5,000円(資料代)
- 対象 次の①、②のいずれかと③の要件を満たす者
 - ①県内の居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員
 - ②県内の医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者
 - ③全課程(2日間)をすべて出席できる者

問合せ先

広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室
※詳細は「広島がんネット」ホームページでご確認ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

患者さんへ 紹介状 持参のお願い

初診時に他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約患者さんを優先して診察しています。予約されずに受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。

医療機関の方へ 診察予約のお願い

患者さんを紹介する際には地域連携センターを通じての診察予約をお願いします。選定療養費の負担もなく、待ち時間も短く、患者さんへのご負担が少なく済みます。ご協力をお願いいたします。

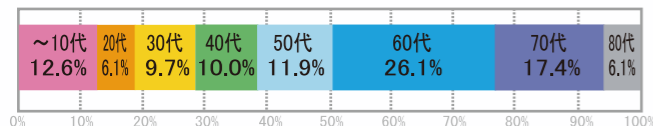
患者さん満足度

アンケート調査の報告

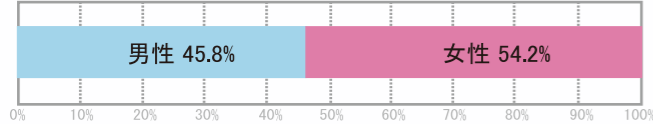
当院では毎年1回、入院及び外来患者さんに満足度調査を実施しています。多数の患者さんに御協力を頂き、誠にありがとうございました。今回はその結果をお知らせいたします。尚、今後ともお気づきの点がございましたら、院内常設のご意見箱へお寄せ下さい。

入院 ● 調査期間：平成28年1月
● 調査母数：362人

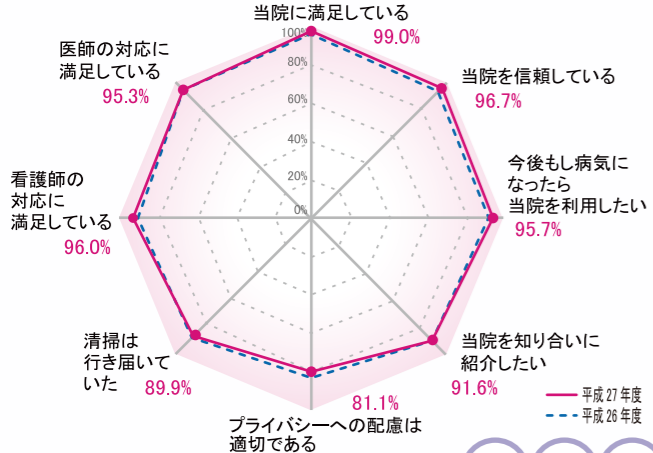
年代別



男女比

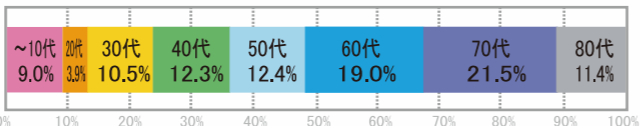


満足度

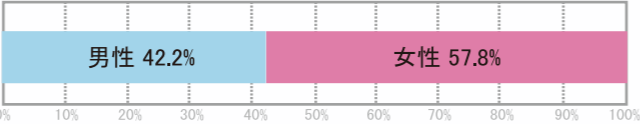


外来 ● 調査期間：平成28年1月
● 調査母数：1,490人

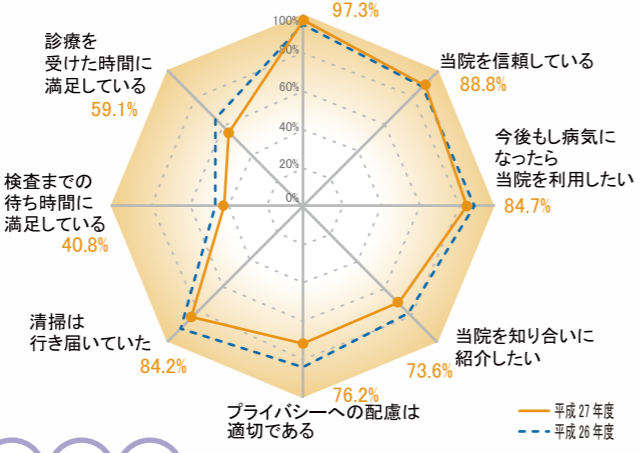
年代別



男女比



満足度



患者さんの声

- | | |
|--|--|
| <p>●良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 受付時間過ぎて電話をかけたが、親切に対応してもらえた。 どのスタッフさんも挨拶をして下さり、感じよく、子供も安心して入院生活を送ることができた。 担当の医師が病室に足を運んでくれ、感謝している。 | <p>●不満に感じる点</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約で初診だったが1時間以上待った。何のための予約時間かわからない。 診察が終わってからの待ち時間が長い。 もう少し患者の気持ちを考えた言葉づかいを。 |
|--|--|

ホップ・ステップ・カンファレンス

東5病棟

東5病棟では心筋梗塞や心不全など、急性期の患者さんが多く入院されています。そのような中で、特に大切にしていることがあります。それは、患者さんの今の問題は何か、今後退院を見据え必要となる支援は何かを考えタイムリーな援助をすることです。そのために看護師だけでなく、医師や地域連携センタースタッフなど様々な職種で日々カンファレンスを行い情報共有に努めています。また、看護の質向上のためPNS(パートナーシップナーシングシステム)を導入しています。パートナーとなる人の特性・能力を生かし互いに刺激しあうことで共に成長でき、さらにはどんな時でも、患者さん目線に立てる看護を実践できるよう頑張っています。

患者さんが安心して生活できるようチームワーク良く看護を提供できるよう精進して参ります！心臓のことはじめ、看護のことならおまかせ下さい！

カンファレンスの様子

外科医の独り言

no.57

— Kさんの悔し涙 —

県病院には県警OBの方が3名勤務されています。そのうちのお一人、Kさんは5年間県病院に勤務されてこの3月任期満了にて退職されました。Kさんは現役時代捜査1課、これは殺人などの凶悪犯罪を取り扱う部署だと思えますが、長年凶悪犯罪と立ち向かって職を全うされた方です。一方、県病院では院内暴力発生防止に努められていました。部署は総務課、Kさんの机の上には何もありませんでした。いや、パソコンが1台あったかもしれません。午前中は総合受付あたりで見かけました。そうです、背の高いやや色黒で目が鋭く切れ長、見覚えありませんか？午後は各病棟を見回り、何か困ったことがあるとすぐに駆けつけてくださいました。とはいっても現役時代の厳しい仕事に比べると物足りなかったのでしょうか、県病院には生活リズムを崩さない為に来ているようなものだとおっしゃっていました。そんなKさんの退職前の3月、総務課でKさんの送別会があったそうです。

そこでKさんは在職期間中に悔しかった思い出を2つ涙ながらに話されたそうです。その1つに私がかかわっていたとは思ってもありませんでした。何気ない私の一言が、凶悪犯に立ち向かってきた経歴のあるKさんに涙を流させるほどの悔しい思いをさせたのです。もちろん私はそんなことを知る由もなくその送別会にも出席していませんでした。事の起こりは内科外来での診療中の話です。詳細は良くわかりませんが、ある外国人女性が興奮して診察室の器材を壊す勢いで暴れているとの知らせを受けてKさんが駆け付けたそうです。女性の興奮は相当なもので、さすがの捜査1課OBのKさんも手を焼いたそうです。Kさんの力量からすれば押さえつけて取り押さえることぐらい朝飯前の事でしょうが相手は女性、それも患者さんなので力づくというわけにもいかなかったようです。何とか穏便に話をつけようとするKさん、一向に興奮のおさまらない女性、ひっかかれたり叩かれた

りとKさんも相当な被害を受けたそうです。もちろんその場に私は居なかったのですが、後にその場にいた看護師さんからその話を聞きました。その時の印象は、へえー狂暴な殺人犯を相手にしてきたKさんも女性にはかなわなかったのか、という感じでした。それから数日後、外来の前の通路で偶然Kさんとすれ違いました。そのすれ違い際に発した私の「Kさん、女性に負けたらしいね」の一言がKさんの心にグサッと刺さりプライドを傷つけたようです。その時Kさんに大人の対応をしていただいたので助かりましたが、普通ならその時私は一発や二発殴られてもおかしくはありませんでした。

実はそんな話を4月に入って開かれたある会でKさんと一緒になり、酒を飲みながらKさんから聞かされました。私の発した何気ない言葉(もちろんKさんにとっては屈辱的な言葉)がこの5年間で最も悔しい思いをしたことにかかわっていたようとは夢にも思いませんでした。

気を付けなければなりません「沈黙は金、雄弁は銀」。実はこの時に知ったのですが、Kさん、この「外科医の独り言」の隠れファンだったらしく、そのおかげで殴られずに済んだのかもしれない。Kさんは、後任の県警OBの方に、この「外科医の独り言」だけは読むようにと申し送って、Kさんが保管していた「もみじ」のバックナンバーを残して辞められたそうです。Kさんの机の上には何もありませんでしたが、引出しの中には「もみじ」があったようです。Kさん、本当に長い間ご苦勞様でした。また度重なるご無礼をお許しください。



ご意見箱

駐車場空き状態の表示を！

地下の駐車場を利用する際に、奥に空きがあるか、行って探さないと判らないので、表示があると助かります。



貴重なご意見をありがとうございます。

